

# 日本山岳写真協会 選抜展「それぞれの山」No.20

日時: 2024年1月5日(金)~10日(水)

会場: ポートレートギャラリー

<b>1 厳冬の西穂高</b>	根本 研司
通年営業の西穂山荘をベースに厳冬期、めったにない好天に恵まれれば、西穂独標から迫力の展望が楽しめる。右手に穂高岳や明神岳、左手には笠ヶ岳、後方には焼岳、乗鞍岳と素晴らしい展望が広がる。 同じ雪山でも春の残雪期に比べて空の青、雪の白、山のすべてにぬけるような透明感があり、白くて美しい穂高がそこにある。	
<b>2 厳冬期日光雲龍瀑</b>	井村 榮二
写友の先輩が撮影の誘いをしてくれました。厳冬期の日光雲龍渓谷。先輩の友人が車で迎えに来てくれて3人で出発。林道を車で進み、そして下車。先輩の友人は渡渉すべき林道を下り、前を流れる川を渡ろうとした。 私は、その登山に必要な自然に身に付いた技術に（只者でない）、とその時内心思いました。 やがて、良くニュースに出る場面に出会いました「大滝」です。日光消防署員の方々の春山訓練中です。知り合いの方がいましたので私達も、飛び入り参加でザイルをお借りして懸垂下降。滝の中の方は轟々と水爆の音が強烈に足下から体に響いて来ます。思い出は撮影と共に私の大切な一頁として心の中に、今でも鮮明に残ります。	
<b>3 風が舞う十勝</b>	相澤 邦夫
雪庇の縄模様も強風で隠れ 雪面の雪が舞い上がる。 時折強い西風が吹き抜ける3月下旬 無風になるとガラスボール状の氷塊が顔を出した フキノトウを思い出す。 寒さが和らぐ頃が近い 春が待ちどろしい。	
<b>4 風雪明けの快晴に輝く</b>	川瀬 正博
八甲田の樹氷は豪雪地帯に位置し、真冬にその美しい姿を見せてくれることは稀です。春の足音が聞こえ始めると、吹雪の直後でも移動性高気圧に覆われる機会が訪れ、快晴の下で輝く樹氷が観察できます。 この写真は2022年3月9日に撮影しました。樹氷は最大の成長を迎え、その生き生きと輝く様子を一日中追い求めました。	
<b>5 幻想の森</b>	鈴木 進
春の奥多摩・御岳山は霧の日が比較的多く、ふと行むと幻想的な世界に包まれる。 歩みを進めると、白く霞んだ視界にトウゴクミツバツツジやヤマザクラがひっそりと姿を現し色を添えていた。	
<b>6 春の稜線を行く</b>	山村 信人
名神高速から中央道に入っていくも思う。ここから遠い。後立山連峰 鹿島槍ヶ岳の「カクネ里雪渓」と五竜岳の「武田菱の雪渓」を見たくて、4月初旬に両方同時に拝めるのは今だ！！と、大阪から車を走らせた。 最高の天気の中、スキー場をこえて遠見尾根を登って行くと、目の前に現れた主役たちは、圧倒的な迫力で出迎えてくれた。	
<b>7 剡岳北方稜線</b>	中根 武司
剡岳の北方稜線上に在る赤谷山（あかたん）には過去一度、若い友人と登ったが、良い写真が撮れず、この時は単独で、予備日を準備し臨んだ。初日は馬場島から、天気が良く腐った雪と重装備に体力を消耗し10時間位歩きやっと頂上に到着、その後急速に天気が崩れ嵐になった。2日目は大荒れ、雨と雪で停滞、頂上は私と悪天候を押して登頂してきたプロのガイド夫婦と私だけ。 夕方から天気は劇的に回復し夜半、星景写真撮影が可能になった。3日目、朝快晴の中、剡岳を目指し登山を開始した2人を見送り下山する。	
<b>8 初秋の立山</b>	岩淵 幹夫
雲が空高くなり、空気が冷たくなり、透明感を増しだす。秋が華やかに岳を彩り始め、日々刻々変化する。 そんな光景を求め、立山室堂雷鳥沢に幕営する。早朝星空に歓喜し、早々と天幕を抜け出し、歩き出す。 長い一日の中で、初秋の光の浮かび上がる立山を撮った。	
<b>9 山の出会い</b>	大谷 博志
今年の槍ヶ岳は冬の到来が早い。大曲から上はアイゼン無しでは登れない。小屋前で休憩していると若者たちが西鎌尾根から勢いよく登ってくる。尋ねると立教大学山岳部のグループと返ってきた。冬の中崎尾根～槍ヶ岳の山行の下見で来たとのこと。少し休むと一気に頂上に向かっていった。戻ってくると、これから双六小屋のテントまで帰るのだという。すがすがしい一日となった。	
<b>10 秋色に染まる大正池</b>	鈴木 好一
いつもは通り過ぎるばかりの大正池を秋の晴れた日にゆっくり歩いてみた。 陽が差し来ると山の秋色が急に輝きだした。大正池の水面も賑やかになってきた。 水面を境にした景色がコラボしていた。碧色した梓川の流れが印象的だった。	
<b>11 大霜の朝</b>	緑川 邦雄
10月下旬、前日大霜になったという情報を受け、期待に胸を膨らませて尾瀬ヶ原へ。 夜、空は晴れ冷え込む中撮影ポイントへ。 だんだん明るくなると、目の前に、ガスが漂う中一面霜に覆われた湿原が現れた。	
<b>12 新雪の朝</b>	石塚 茂
11月下旬、小屋閉めの頃新雪撮影のために訪れる。 この時期の冬晴れを期待していたが、天候悪く諦めていたが、下山日の前夜から晴れの天気予報。 日の出を撮りに早朝小屋を立ち、みどりが池で久しぶりの日の出に感動し撮影した。	